

各関係機関長様

佐賀県農業技術防除センター所長

タマネギべと病の防除対策の徹底について



マルチ早生や無マルチ中晩生のタマネギでべと病一次伝染株の発生圃場が増加しています。また、暖冬によりタマネギの生育が進み、本病に感染しやすい状態になっています。ついでには、本病による早期の二次伝染を防ぐため、「一次伝染株(越年罹病株)の抜取り」を行うとともに、発病がみられる中晩生タマネギにおいても、「薬剤防除」を開始するよう、生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生概況と今後の発生予想

(1) 発生概況

【マルチ栽培早生タマネギ】

平成31年2月20日に県内12圃場を調査した結果、一次伝染株の発生株率は0.07% (前年同時期0.01%、平成28年産同時期0.70%)で前年より多く、多発生した平成28年産より少なかった。(表1)。

【無マルチ栽培中晩生タマネギ】

同様に県内9圃場を調査した結果、一次伝染株の発生株率は0.02% (前年同時期0%、平成28年産同時期0.18%)で前年多く、多発生した平成28年産より少なかった。(表1)。発病は、定植時期の早い圃場で認められる傾向があった。

表1 タマネギべと病の発生状況

調査年	マルチ栽培		無マルチ栽培	
	発生圃場率(%)	発生株率(%)	発生圃場率(%)	発生株率(%)
平成31年	25	0.07	11	0.02
平成30年	10	0.01	0	0
平成29年	36	0.08	11	0.01
平成28年 (多発生年)	56	0.70	43	0.18

※ 調査は平成31年は2月20日、平成29年は2月21日、平成30年、平成28年は2月23日に実施。

(2) 今後の発生予想

12月の降雨日数は多く、本病の一次伝染が助長されたと考えられる。また、気温は12月以降、平年に比べ高く推移しており(表2)、今後も同様の状態が続くと予想されている(2月14日福岡管区気象台発表の1ヵ月予報)

表2 これまでの気象条件

年度	12月			1月			2月(19日まで)		
	平均 気温	降水 量	降雨 日数 ^{※)}	平均 気温	降水 量	降雨 日数 ^{※)}	平均 気温	降水 量	降雨 日数 ^{※)}
	°C	mm		°C	mm		°C	mm	
30年度	9.2	89.5	20日	6.8	28.0	18日	8.0	67	13日
(<u>平年比</u>)	<u>+1.7</u>	<u>188%</u>		<u>+1.4</u>	<u>49%</u>		<u>+1.7</u>	<u>164%</u>	
平年	7.6	47.7	-	5.4	56.7	-	6.3	40.8	-

佐賀市の気象観測データによる

※降雨日数は、降雨量が0.0mm以上の降雨があった日を計数

これらのことから、早生～晩生のタマネギにおいて、べと病の一次伝染株の発生が増加し、平年よりも早期から二次伝染が起こる可能性がある。

2. 防除対策

本病による被害を防ぐには、早期の二次伝染を防ぐことが極めて重要であるため、以下の防除対策を確実に実施する必要がある。

(1) 一次伝染株の抜取り徹底

一次伝染株の抜取りが遅れると、春季の多発生を招く恐れがある。そのため、圃場の見回りを行い、一次伝染株を見つけたら直ちに抜取り処分を徹底する。

(2) 薬剤防除の徹底

早生タマネギ

2月8日付け病害虫対策資料第12号で示したとおりの防除対策を継続する(図1)。

中晩生タマネギ

以下のとおり対策を実施する。

【一次伝染株の発生がみられる圃場】

早期から二次伝染が起こる可能性があるため、2月下旬から防除を開始する。

3月上旬以降の薬剤防除体系については、これまでの計画通り図1を参考に実施するが、具体的な防除暦については各地域で作成されたものを参照する。

【一次伝染株の発生がない圃場】

薬剤防除は当初の計画通り3月上旬から開始する(図2)。

(3) 排水対策の徹底

圃場内に雨水が停滞すると、本病が発生しやすくなるので、溝切り等の排水対策を徹底する。

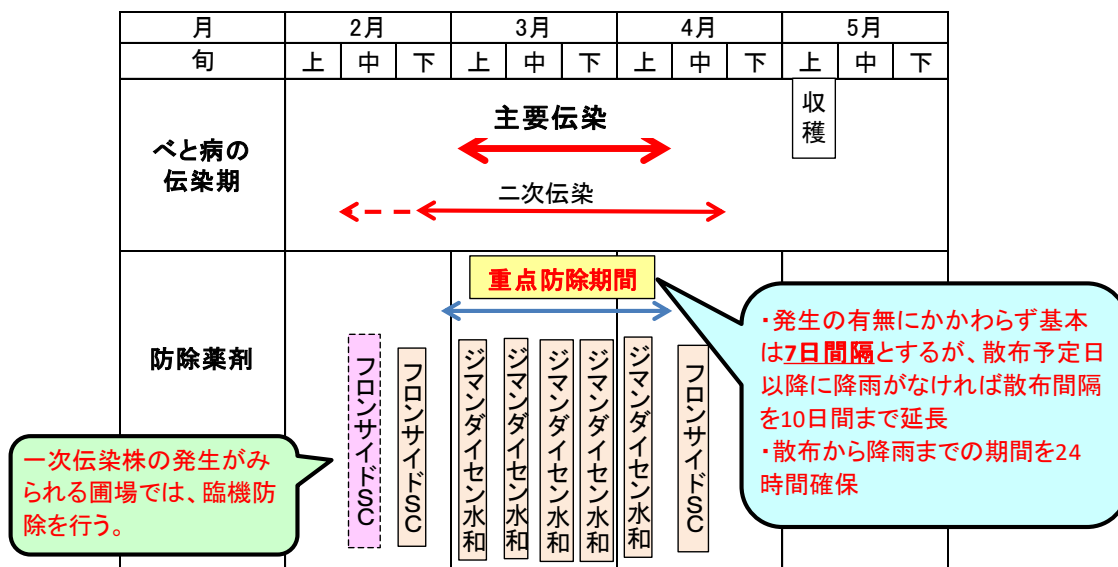


図1 早生タマネギにおけるべと病の伝染時期と薬剤防除体系（例）
 （無マルチ栽培、定植日11月中・下旬、収穫日5月5～10日を想定）

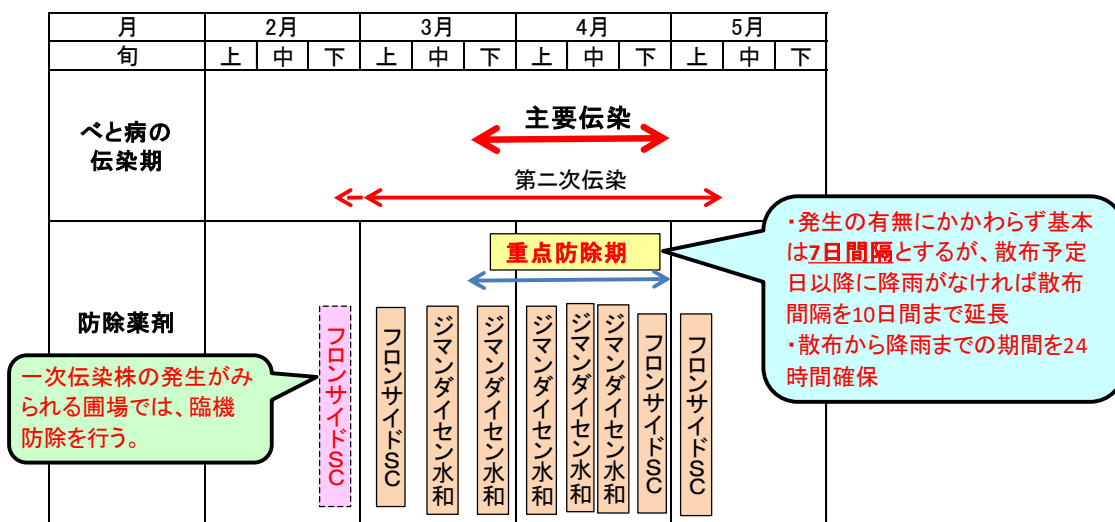


図2 中晩生タマネギにおけるべと病の伝染時期と薬剤防除体系（例）
 （無マルチ栽培、定植日11月下旬、収穫日5月22～30日を想定）

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5042